

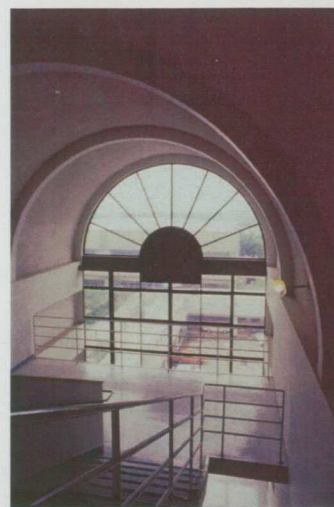
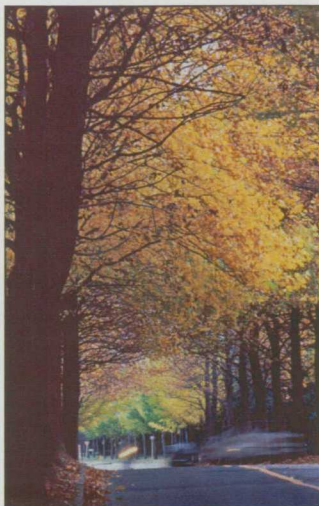
筑波大学キャンパスリニューアル計画

(Campus Renewal Master Plan of TUV : 略称 ^{クリマップ} CReMaP)

報 告 書

2002年3月

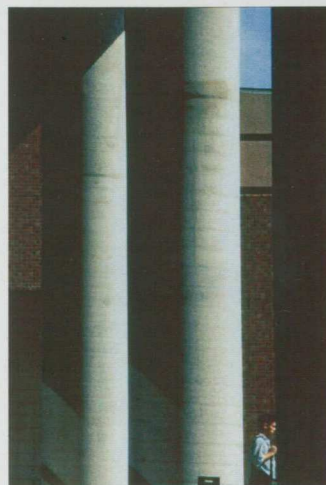
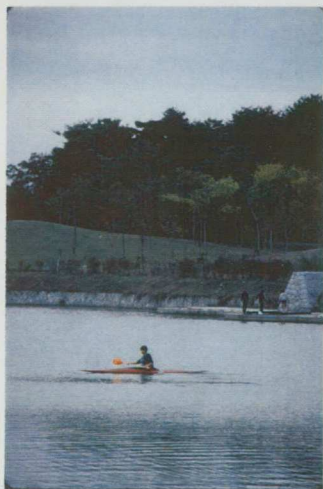
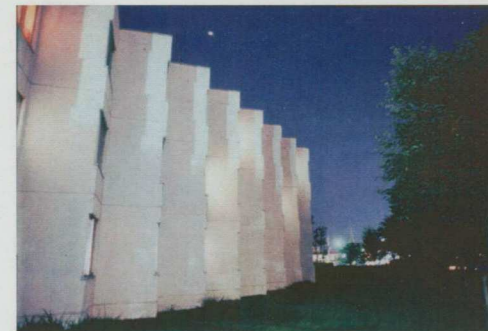
筑波大学施設委員会
キャンパスリニューアル計画部会
筑波大学施設部



美しく快適なキャンパスづくりを目指して
 —全員で創り、育むキャンパスづくりのために—



撮影 京藤さだむ



筑波大学キャンパスリニューアル計画
(Campus Renewal Master Plan of TUV: 略称 CReMaP)

報 告 書

目 次

はじめに			
I キャンパスリニューアル計画について			
1 キャンパスリニューアルの必要性	P 1	3 設備の計画	P 27
2 キャンパスリニューアル計画の策定について (H120926 施設委員会)	P 2	電力設備の計画	
3 筑波大学施設の有効利用に関する基本方針 (H130130 施設委員会)	P 3	コ・ジェネレーション・システムの計画	
4 キャンパスリニューアル計画の視点と位置付け	P 4	情報通信設備の計画	
II キャンパスの問題点と課題		空調設備の計画	
1 筑波大学を取り巻く状況とキャンパスリニューアルの戦略 (参考)我が国の高等教育の状況	P 5	廃棄物処理の計画	
2 キャンパスの問題点と課題	P 6	4 交通システムの計画	P 34
目で見えるキャンパスの問題点と課題		幹線道路及び自転車専用道路の計画	
データで見るキャンパスの問題点と課題		バス停・バスターミナルの計画	
III キャンパスリニューアル計画(改善計画)の提案		5 景観・緑化の計画	P 38
1 キャンパスのマスタープラン	P 12	景観・緑地の詳細計画(1)、(2)、(3)、(4)	
グローバル時代のU I (大学個性の確立)を目指して		6 サインの計画	P 43
マスタープラン(基本計画)		7 アートの計画	P 44
(参考)現在のキャンパスの基本計画		8 運動施設の計画	P 46
2 建物の計画	P 18	9 ユニバーサルデザイン	P 47
大学院(博士課程研究科)の改組の概要と施設再編の必要性		10 環境への配慮	P 48
大学院重点化に対応する施設整備の全体構想		11 キャンパスの管理・運営	P 50
学群・学系施設再編のイメージ		IV アクションプラン(実行計画)の提案	
総合研究棟の計画		1 リニューアル計画の中長期計画(年次計画)	P 51
総合交流会館の計画(社会と大学のチャンネル施設)		2 リニューアル計画の実行プログラム	P 51・52
宿泊施設の計画		V 資 料	P 53 ~
病院施設の計画			
各室の計画(イメージ)			
食堂、学生控室・自習室、実験室、院生研究室、研究交流ラウンジ、講義室、公開資料室			

はじめに

本学は、開学以来、先人達の努力により広大な敷地に多くの施設が建設され、現在ではわが国有数の規模を誇る、緑豊かなキャンパスを有しています。

しかし、開学以来すでに 28 年が経ち、施設の老朽化や機能低下が急速に進行し深刻な状況になりつつあります。

現在、建物の約 50 %が建設後 25 年を経過しています。また、この間、社会は急速に変化し教育・研究の環境も変わってきました。建設当初は新構想大学として理想的なキャンパスといわれた施設・設備も改善が必要な部分が多く見られます。

一方、これまでも先端学際領域研究センター(TARA)などの新しい建物がキャンパスに加えられ、広大な敷地を誇っていたキャンパスも部分的に建てつまりの状況が生じてきました。最近では、大学院博士課程の改組・再編に伴う施設(総合研究棟 A 棟)の建設がはじまりました。これに続く施設の建設も計画されています。さらに将来、教育研究の進展等に対応した整備も必要になってきます。

このような状況にあって、本学のキャンパスならびに施設・設備の全体的な見直しと評価、それに基づいた新たな整備・改修および維持・保全が緊急の課題となっています。

施設委員会では、このことを十分に認識し、平成 12 年 9 月「キャンパスリニューアル計画」の策定を決定し、そのための検討組織・体制を整えました。計画の策定は、施設委員会の下に設けられた 5 つのワーキング・グループと施設部が中心になり、そこに多数の教職員や学生が参加して進めてきました。

キャンパスリニューアル計画の目標は、まずキャンパスと施設・設備の総点検を行い、それに基づいて教育研究環境を再整備し、施設のアクティビティとアメニティを高めようとするものです。計画は、土地利用や空間構成のフレーム、交通システムやエネルギー供給等のインフラストラクチャー、そして施設・設備等、多岐にわたる対象について計画方針や骨組を提示し、将来に向けてのキャンパス像を示しています。

計画の立案は、以下の基本的な考え方に則って行っています。

- ① 大学の建学の理念、将来像・将来計画を踏まえた計画とする。
- ② 社会の期待や要請に応じて高度化・多様化する教育・研究活動に常に弾力的に対応できる計画とする。
- ③ 大学のコンセプトが見え、環境に配慮した再整備を図るものとする。そのなかで、本学の特徴がよく表現でき、全体の調和のなかで、各組織それぞれの「顔」も見えるような計画とする。
- ④ 既存の施設、キャンパスの施設・環境を最大限に活用する。
- ⑤ 全学が参加し、できるだけ多くの人々に満足のいく、そして愛着の持てるキャンパス造りを目指す。

計画の実現は年次的に進められますが、同時にすぐに実行可能なものはアクション・プランとして具体化することとしています。

キャンパスは学問・研究を中心としたコミュニティの場であり、教職員・学生のすべてにとって活動の基盤となる大切なものです。できれば、すべての方々に満足の行く環境を創りたいものです。キャンパスリニューアル計画は、そのためのスタートラインであり、決してゴールではありません。これからも多くの方々に参加してもらい計画を実現して行きたいと考えています。皆様のご協力をお願いします。

施設委員会委員長 富江 伸治